

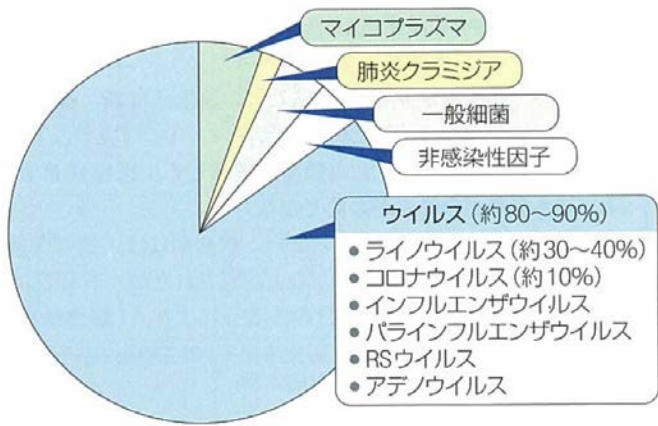
風邪かな？

かぜ症候群は鼻腔や咽頭などの上気道粘膜の炎症性疾患の総称で、鼻水や咳などの局所症状のほか、発熱や頭痛などの全身症状を伴うこともあります。



◆◆かぜの原因

- かぜの原因となる微生物はウイルスが大部分で、全体の80～90%をしめます。残りは一般細菌、マイコプラズマ、クラミジアなどです。



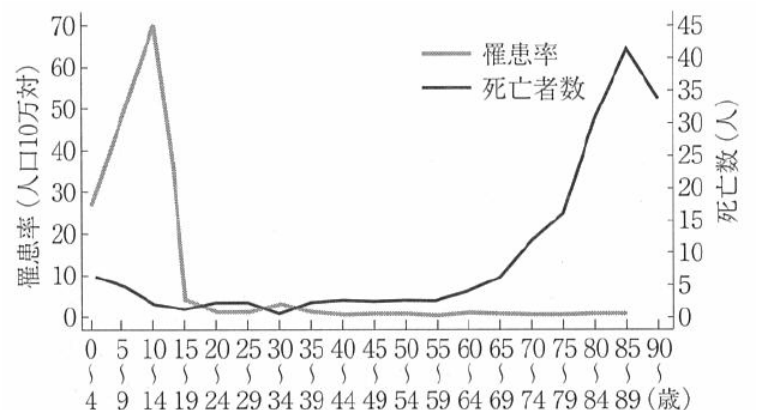
(「病気がみえる」Vol.4 より)

タイプ	主な原因ウイルス	特徴	主な症状
普通感冒	●ライノウイルス ●コロナウイルス	→秋と春に多い →冬に多い	●鼻汁 ●鼻閉 ●くしゃみ
インフルエンザ	●インフルエンザウイルス	冬～春先に多い	●発熱 ●頭痛 ●筋肉痛 ●全身倦怠感
咽頭炎症候群	●パラインフルエンザウイルス ●アデノウイルス		●咽頭痛 ●発熱
咽頭結膜炎 (プール熱)	●アデノウイルス	小児に好発 →夏に多い	●発熱 ●咽頭炎 ●結膜炎
ヘルパンギーナ	●コクサッキーウイルス A 群、B 群 ●エコーウイルス	幼児に好発 →夏に多い	●咽頭痛 ●咽頭粘膜の小水疱・潰瘍
クループ	●パラインフルエンザウイルス ●RSウイルス ●アデノウイルス	幼児～小児に好発 →冬に多い	咽頭部の狭窄 ●吸引性喘鳴 ●犬吠様咳嗽 ●嗄声

- ウイルスには季節的流行の特徴があり、ライノウイルスは春と秋、コロナウイルス、RSウイルス、インフルエンザウイルスは冬に多い傾向があります。
- アデノウイルスやエコーウイルス、コクサッキーウイルスは、小児の夏かぜの代表的な症候である咽頭結膜熱(プール熱)、ヘルパンギーナ、手足口病などを発症します。
- 風邪に似た症状があり、特に鑑別が必要な疾患として、風疹(風疹ウイルス、三日ばしか)、麻疹(麻疹ウイルス、はしか)、水痘(水痘帯状疱疹ウイルス、水ぼうそう)、伝染性単核球症(EBウイルス、キス病)、肺炎(細菌性、死因の第三位)、肺結核(結核菌)、猩紅熱(溶連菌)、スティーブンス・ジョンソン症候群(重症多形滲出性紅斑)、膠原病(自己免疫疾患)などがあります。

◆◆インフルエンザ

- インフルエンザは、インフルエンザウイルスによる感染症で、かぜ症候群の中では最も症状が重く、時として世界的大流行(パンデミック)を起こします。
- インフルエンザウイルスは、3つの型(A, B, C)があり、特にA型は毒性が強く、注意が必要です。
- 冬から春先にかけて流行し、発熱(38℃以上)、悪寒、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身倦怠感が急速に現れます。
- インフルエンザは、特に小児の罹患率が高く、死亡率は高齢者で高くなります。
- インフルエンザの合併症は、小児ではインフルエンザ脳症、高齢者では肺炎があり、特に注意が必要です。



インフルエンザの罹患率と死亡者数(年齢別)

(「インフルエンザパンデミック」より)

◆◆かぜをひいてしまったら

ウイルス性のかぜ症候群であれば、通常は安静、水分・栄養補給により、1週間以内に自然に治癒します。抗菌薬も一般的には不要なことが多く、解熱剤も適宜に使用する程度でよいと思われます。ただし、次の場合は医師の診療を受ける必要があります。

- 38℃以上の高熱 ● 色のついた痰や鼻汁 ● 激しい喉の痛み・喉の腫脹 ● 激しい咳、喘声、呼吸困難 ● 発疹、舌の異常 ● 慢性呼吸器疾患、心疾患、糖尿病などの基礎疾患保有者 ● 妊婦

相談できるくすりやさん

フジカワ調剤薬局

東みよし町昼間 923-1
TEL 0883(79)2014